

# 市民病院通信

## 新型ノロウイルス

ノロウイルスは、乳幼児から高齢者まで幅広い世代で急性胃腸炎を引き起こすウイルス性感染症です。年間を通して発生しますが、例年冬場に流行します。

問 市民病院感染管理対策室 (☎56・3171)

### ■ 新型ノロウイルス

今年に入り「GⅡ.17変異株」という新しいノロウイルスが検出されました。このノロウイルスは病院で行う簡易的な検査方法では判定されにくい傾向にあると報告されています。さらに、今まであまり検出されていない型のノロウイルスのため、免疫を持たない人が多いと予測され、大流行する恐れがあります。

### ■ ノロウイルスの感染原因

ノロウイルスは、一度感染したことがあっても繰り返し発症します。感染の原因は、ノロウイルスで汚染されたカキなどの二枚貝を、生や加熱が不十分な状態で食べることや、ノロウイルス感染者が調理した料理を食べること、ノロウイルス感染者の吐いた物や排せつ物を触れた後に、手洗いが不十分だったことなどが挙げられます。

### ■ 強い感染力と重い症状

ノロウイルスの症状は、体にウイルスが入ってから24～48時間で激しい嘔吐や下痢、ときには発熱や頭痛などを伴います。感染力が非常に強く、少しのウイルス量でも発症します。症状は1～3日続くため、脱水症状になることがあります。症状が重い場合は、下痢止めなどを安易に使用せずに、最寄りの医療機関を受診してください。

### ノロウイルスチェック

- 体温が37～38℃
- 下痢が続く
- 嘔吐がひどい
- 腹痛がある
- のどの痛みはない
- 咳は出ない
- 関節や筋肉の痛みはない
- 前日は元気だった

### ■ 感染予防のポイント

「手洗い」と「加熱調理」が重要です。アルコール消毒では効果がないため、石けんで手をしっかり洗ってください。特に小さなお子さんや高齢者などが感染したときに、吐いた物を片づけたり、おむつなどを交換したりする場合は、必ず石けんで手を洗ってください。

## 市民病院Q&A

Q

がんに対する新しい免疫療法はどのようなものですか？

院長 榎田政隆

A

ヒトの身体には免疫機能が備わっており、異物が侵入すると攻撃し排除します。がん細胞も異物と認識されるのですが、これが臨牀的ながんになる理由は、がん細胞が免疫細胞の攻撃をかわす術を持っているためといわれてきました。これまでも、免疫療法は行われてきましたが、免疫力を高める方法が中心で、抗がん剤に比べて効果は低く、保険適応にもならないため、高額な実費診療が行われてきました。

しかし最近、免疫細胞の働きにブレーキをかけて、攻撃を阻止する仕組みが解明され、このブレーキを解除して、免疫細胞を活性化してがん細胞を攻撃する「免疫チェックポイント阻害剤」という新しい薬が開発されました。現在日本では、悪性黒色腫という皮膚がんのみ保険が適応されていますが、近い将来にその範囲は広がると考えられます。この治療法は現在非常に注目されており、使用可能になれば早々に取り入れたいと考えます。

問 市民病院外科外来 (☎56・3171)